

教室 AV 設備更新および支援状況（池袋キャンパス）

1、 AV 機器設置教室

2004 年から 2010 年にかけて教室数は 27 カ所増え、教室としては現在 193 存在する（タッカーホールを含む）。そのうち 7 号館 B 棟 15 教室と、8 号館 5PC 教室以外、全教室に AV 機器を設置した。7 号館 B 棟も教室外倉庫に 8 台の AV ラックを設置し、必要に応じて利用できるようになっている。

この数年間でパソコンを用いた教材や資料の活用が普及したため、プロジェクター利用は増え、RGB 入力が必須となった。そのため老朽化した AV ラック型は簡易操作卓型または改良 AV ラック型へ、テレビ型は大型モニター型へと改修を進めた。その結果、本館 9 教室（テレビタイプ）を除く全教室でパソコン画面の投影が可能となった。本館も本年改修が予定されているので、これで全教室、マルチメディア教材の利用は可能となる。（資料：AV 環境設置、貸出し状況 図 1、表 1）

それでは実際に AV 機器はどれぐらい利用されているか。2010 年 10 月 4 日からの 1 週間と 11 月 29 日からの 1 週間、毎時間ごとに AV 利用鍵の貸出し状況を調べて、その平均からおおよその傾向をみた。全体では授業に対して AV 機器の利用率は 43% だった。機器の利用が 50% 以上あるのは 32 教室。そのうち操作卓は 14 教室、簡易操作卓は 5 教室、AV ラック型は 13 教室だった。

2、 AV 機器の貸出し状況

2008 年まで年々増加していた機器貸出しが、2009 年後期は減少した。ノートパソコンの貸出しがほぼ半数に減少したためである。これは 2009 年夏に、これまで操作卓型および簡易操作卓型にのみパソコンが設置されていたのが、AV ラック型にまで拡大して設置されたことによる（一部大型モニター型とワゴン型を含む）（資料：AV 環境設置、貸出し状況 図 2、3）。特に定期貸出しでは 80% 減少した（資料：AV 環境設置、貸出し状況 図 5）。

ところが 2010 年前期では 30% 増加した。これはサポートの項で述べるが、教室に設置されたパソコンがシンクライアントのために様々なトラブルを起こしたため、かわりに従来通り、貸出しパソコンが利用されたからである。しかし後期は是正により再び減少し、パソコン導入前に比べ、全体で 50%、定期貸出しでは 90% 以上減少した。

パソコンとは逆に貸出しが増えたものは、デジタルビデオカメラ、IC レコーダー、DVD プレーヤーである

デジタルビデオカメラは英語ディスカッションセンターの要請を受けた「Teacher Observation」のプログラムが実施されたことと、キャリアセンターの就職支援プログラムの実施が多かったためである。

IC レコーダーはカセットテープに変わり、録音のツールとして人気が出てきた。DVD はサポートの項で述べるが、メディアの多様化によるものである。

3、 管理およびサポート状況

機材トラブルは 2009 年後期をピークに減少傾向にある（資料：AV トラブル、サポート状況 図 1、4）。しかし 2009 年後期は先に述べたシンククライアントによるトラブルが多発した。内容は

- ・ 起動が遅い
- ・ ID とパスワードの入力が必要である
- ・ 起動前に RGB、LAN ケーブルおよび電源アダプターすべてを接続する必要がある
- ・ DVD を再生できない、動画を再生できない

等であった。そのため、

- ・ 全パソコン設置教室に接続方法を示す簡易マニュアルを表示する
- ・ 教室案内ホームページでも使用方法を見られるようにする
- ・ 機器や鍵に表示をする

等で注意を喚起した。また、2010 年後期から

- ・ ID、パスワードの入力が不要になった

その結果、トラブル、サポートは減少した。

プロジェクターは改修がすすみトラブルは減少しつつあるが、プロジェクターの使用頻度の多さからランプの消耗が速くなったこと、老朽化したプロジェクターが度々トラブルを繰り返すことなどで 2010 年は若干増加している（資料：AV トラブル、サポート状況 図 1、4）。

AV タイプ別では操作卓、簡易操作卓、AV ラック型でトラブル発生回数は同じくらいであるが、教室数から考えると操作卓、簡易操作卓がやや多くなる。操作ミスは操作卓と AV ラックが多くなり、簡易操作卓は少ない。操作卓は機能がありすぎて使用が煩雑、AV ラックはパソコンの接続が困難、簡易操作卓と大型モニターは操作しやすい、といえる（資料：AV トラブル、サポート状況 図 4、5、7、8）。

機器別ではサポートが増えているのは DVD とブルーレイプレーヤーである。

- ・ 再生形式がビデオモードではない
- ・ ファイナライズをしていない
- ・ 教室設置の DVD またはブルーレイプレーヤーが対応していない
- ・ 地デジ録画した（CPRM）

等である。

- ・ 再生可能な DVD またはブルーレイプレーヤーを持ち込む
- ・ 形式を変換する。
- ・ ファイナライズする

・ホームページに教室ごとに再生可能なメディアをのせる
等に対応している。現在 CPRM 対応機は 107 教室、ブルーレイプレーヤーは 55 教室に
設置している。ブルーレイプレーヤーでも SONY では再生できないものもあり、過渡期
にある今、教室のプレーヤーを一斉に変えるにはリスクがあるので、今後も情勢を見
て暫定的に対処していくこととなる。

2010 年度は 14 号館でマイク音が出ない、操作卓型の大教室でノイズがする等のトラ
ブルが起きた。学生部から入試時の音の影響を示唆され、徹底的に調査した結果原因
が特定できた。

AV 機器は校舎が建設され、内装が終わった後に取り付けるため、他の敷設ケーブル
類の影響を受けやすいことが判明した。今後新棟建設においては工事途中でケーブル
の状況を確認させてもらえるよう、要請した。

また既存の教室では、ケーブル工事は不可能なので、レベル調整でノイズ軽減に努
めた。

4、 支援状況

2010 年度サポート合計は 775 件、うち授業支援は 444 件、学会講演会等は 331 件と
なっている。授業は前期授業開始の 4 月が圧倒的に多く、次いで後期授業開始の 9、10
月となる。学会講演会等は後期 10～12 月が多くなる（資料：AV トラブル、サポート状
況 図 9）。

2010 年度支援が多かったものは

- 1、 英語ディスカッションセンターの Teacher Observation
- 2、 経営学部 BL2 他
- 3、 キャリアセンターの就職支援プログラム
- 4、 全カリ 英語授業
- 5、 異文化コミュニケーション学部 講演会他

となっており、いずれもデジタルビデオカメラおよび教室内カメラでのセッティン
グと録画を主に支援した。

2007 年後期より、改修される操作卓型教室には教室内カメラを設置している。初期
には認知度が低くあまり利用されなかったが、最近では一度利用すると機材の設置、
撤収、撮影の煩わしさがなく、撮影のための人員を確保しなくてもよいこと、確
実に撮影されていることから利用希望が増えている（資料：AV トラブル、サポート状
況 図 3、6、表 10 ）。

また 2009 年に太刀川多目的ホールに同時通訳システムが導入された（資料：AV トラ
ブル、サポート状況 表 10）。まだ 4 件の利用にとどまっているが、利用者からは好評
を得ているので今後利用は増えそうである。

5、 ダビング

音声録音（全カリ語学のカセットやCDの複製）が減っているので全体の受注数は60件ほど減っている。しかしDVDの作成は増えているので、作成数は全体で100件ほど増加した。

支援状況の項で述べたように教室内カメラ利用が増えたことにより、
教室内カメラでの録画→HDDに録画→DVD作成
というパターンが増えた。

これまで持ち込まれるものは教材という前提があったので、ダビング元はあまり精査していなかった。しかし、多種のメディアが持ち込まれるようになり、著作権が厳しく問われるようになった情勢を踏まえ、ダビング受け付け基準を設けた。

- ・コピーガードがかかっているものは受け付けない
- ・授業で使用する教員用の1部以外（学生用）はダビングしない
- ・1件につき最大20部までコピー可能、それ以外は業者を紹介

これまで全カリの先生からの依頼で、学生用に複製を作っていたことを全カリに伝え、先生に対処していただけるよう伝えた。